

260303ナイトタイム観光フォーラム

渋谷のナイトタイム観光のポテンシャル



東京都市大学
中島伸

自己紹介

東京都市大学都市生活学部准教授／都市デザイナー



博士(工学)、専門：都市デザイン、都市計画史、公民学連携のまちづくり

アーバンデザインセンター坂井副センター長、渋谷再開発協会渋谷計画2040エリアビジョン委員会委員長、東京都リノベーションによる再生まちづくり選考事業審査委員会委員長など歴任。

日本都市計画学会論文奨励賞、日本不動産学会湯浅賞（研究奨励賞）博士論文部門、他。

渋谷での実践型研究プロジェクト



渋谷桜丘新グランドデザイン
2019年12月
再開発に伴う桜丘エリアの
まちづくりビジョンの検討・策定
渋谷桜丘周辺地区まちづくり協議会

渋谷SMILEプロジェクト
2021年3月
ポストコロナにおける多極分散型の
渋谷のビジョン検討
渋谷未来デザイン、渋谷区、東急
日建設計総研、LUUP

渋谷計画2040—まちづかい戦略—
2024年7月
まちの使い手とともに育むまちづくりビジョンの策定
雑居感やまちの余白、回遊に着目したビジョン
渋谷再開発協会



渋谷計画2040—まちづくり戦略—について

渋谷計画2040エリアビジョン委員会委員長
東京都市大学都市生活学部
中島伸

○渋谷再開発協会の紹介

SHIBUYA 2040
渋谷計画2040

渋谷再開発協会は、「渋谷らしさ」という独自性を生かし、持続的に多様な人々を惹きつけ、新たな価値を生むまちにしたいと考えています。そこで、産業振興の観点から、イノベーションを起点に経済開発戦略「渋谷計画2040」を策定することで、公共空間、ライフスタイル、交流強化へ循環的に波及し、その結果、2040年の渋谷は持続的に発展する成熟した国際都市になると考えました。

■渋谷再開発協会の概要 (2018年3月現在)

設立	1972年(昭和47年)5月 「渋谷再開発促進協議会」(1964年(昭和39年)12月設立)を名称変更
目的	渋谷の都市再開発を促進し、地域の合理的な高度利用、環境の整備改善等により都市機能の維持増進を図り、経済の振興と公共の福祉に寄与する
会員	渋谷のまちづくりを考える地元関係団体・企業(約90団体) 地域(渋谷駅周辺)の町会・商店会、東京商工会議所渋谷支部 地域で活動する企業(日本放送協会・東京電力・東京ガス・鉄道、大型商業・金融・建設等)
役員	会長 齊藤正治 副会長 佐藤 仁(東京商工会議所渋谷支部会長) 大西賢治(渋谷区商店会連合会会長) 兩宮 主(東急百貨店取締役副社長執行役員) 理事長 波邊 功(東京急行電鉄取締役専務執行役員)
顧問	長谷部健(渋谷区長) 多田修人(前東京商工会議所渋谷支部会長)
事業	渋谷再開発に関連する事業の計画 渋谷の再開発に関わる各種情報の収集と共有ならびに調査研究 講演会、セミナー、視察会等の実施、機関誌等の発行、行政・他団体との連携

■開発・経済委員会の概要

開発・経済委員会は、渋谷区より依頼された「渋谷駅を中心としたエリアにおける産業振興についての検討及び、まちづくりマスタープラン策定への協力」を目的に設立され、半年にわたり活発な議論をしました。

委員長 波邊 功(渋谷再開発協会理事長)
副委員長 大西賢治(渋谷区商店会連合会会長)

検討経緯

第1回	2017年 9月19日(火)	目的の設定、目標の設定
第2回	2017年11月22日(水)	目標に関する現状分析
第3回	2018年 1月24日(水)	戦略オプションの抽出と優先順位づけ
第4回	2018年 3月 9日(金)	将来像の作成、実施計画の作成

■実現に向けて

渋谷再開発協会は、「渋谷計画2040」の実現に向けて、経済の担い手である民間と政策の策定を行う行政とともに、継続的にモニタリングやレビューを行い、先導プロジェクトの推進、政策の立案支援、社会へのプロモーションを行ってまいります。



SHIBUYA 2040

渋谷計画2040

「成熟した国際都市 渋谷」に向けた経済開発戦略

2018年3月
渋谷再開発協会 開発・経済委員会

渋谷らしさを生かし、
多様な人々を惹きつけ、新しい価値を生み、街ブランドを発信する
「成熟した国際都市 渋谷」

NHK起点

「メディア」を軸に、NHKの周辺に多様な担い手が交流し、
新たなコンテンツや事業が生まれ続けているエリア



革新された都市計画と産業政策

- ・産業振興推進組織の設立
- ・都市計画の改訂
- ・地区計画の改訂・新設
- ・民間連携基盤構築

世界的な視野で渋谷らしさに磨きをかけて、NHK、STEAM[※]研究教育拠点、Googleというメディア、エデュテイメント[※]、テクノロジーの世界的な拠点の周囲に、多様な担い手が集積・交流し、エリア全体で新しい価値の創出に向けて共創し続けています。

エデュテイメント起点

「エデュテイメント」を軸に、楽しい学習や体験そして制作の場がたくさん設けられ、未来を担う人材が集まり交流し続けているエリア



多国籍テクノロジー企業起点

「テクノロジー」を軸に、多国籍テクノロジー企業が多様な担い手との連携を起し、スタートアップや新規事業が生まれ続けているエリア



※1 STEAM(スティーム)教育とは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)を統合的に扱う「STEM」に、Art(芸術)を加えて提唱された教育手法。
※2 エデュテイメント(edutainment)は、娯楽でありながら、娯楽と関係ない分野の教育として機能するようなエンターテインメントの形式、子供向けの体験型博物館や教育的な遊園地などもエデュテイメントの一環。

■ 渋谷らしさ

「渋谷らしさ」というまちの独自性は、民間主導で形成されてきたストリート文化に象徴されます。起伏に富んだ地形の上に、大通路から路地まで名前がついた多様な街路が入り組んでおり、歩行者回遊性が高いのも特徴です。

●1986年に開業したミニシアター「シネマライズ」



By Naoki Chen (M) CC BY-SA 4.0
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Shibuya14.jpg Via Wikimedia Commons

●渋谷のストリーツの名前



出典: 渋谷区ウェブサイト

■ 上位計画との関連性

2017年2月に策定された「渋谷区長期基本計画」に記載されている「文化・エンタテインメント分野」、「産業振興分野」を軸として検討を行いました。ちがいをちからに変える街、人々の多様性(ダイバーシティ)を受け入れるだけでなく、その多様性をエネルギーに変えていく(インクルージョン)長期基本計画の大方針を基に、「渋谷らしいライフスタイルを創出」することが、持続的な成長を遂げるまちになると考えます。

F
あらたな文化を生みつける街へ。
[文化・エンタテインメント分野]

G
ビジネスの冒険に満ちた街へ。
[産業振興分野]

出典: 渋谷区ウェブサイト

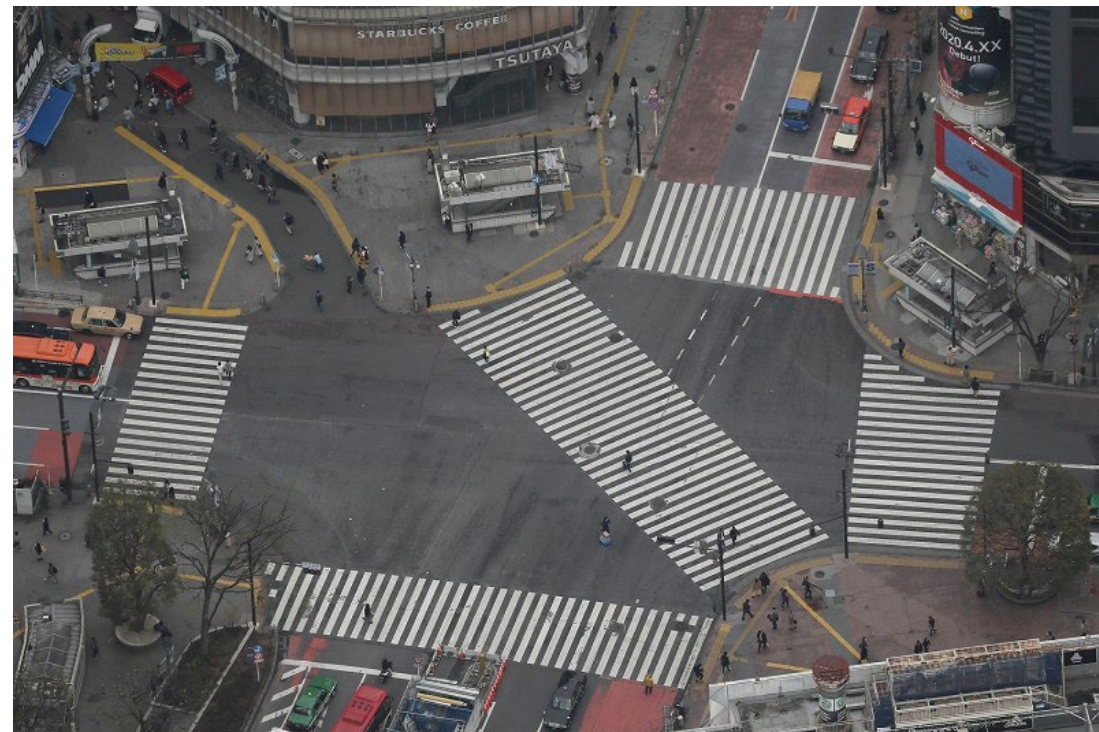
COVID-19による渋谷の状況の大きな変化

コロナ禍による路面店の空き店舗の増加

コロナ後にインバウンドは回復するも、働き方や暮らし方の変化から来街者数はコロナ前には戻らないという認識の広がり。



渋谷計画2040の改訂へ



都内で外出自粛 銀座の街も渋谷の交差点もガラ「毎日新聞2020/3/28」

渋谷再開発協会の紹介

渋谷再開発協会の概要（2024年7月現在）

設立	1964年(昭和39年)12月22日「渋谷再開発促進協議会」として設立され、1972年(昭和47年)5月に現在の名称へ変更。2021年12月に一般社団法人化。
目的	渋谷の都市再生の促進や、人の活動のための場づくりを通して、職・住・遊における高い暮らしの質を実現し、サステイナブルな歩いて楽しいまちづくりを行う。
会員	約110団体・企業 / 渋谷のまちづくりを考える地元関係団体・企業 地域(渋谷駅周辺)の町会・商店会、東京商工会議所渋谷支部 地域で活動する企業(日本放送協会・東京電力・東京ガス、不動産・鉄道・大型商業・金融・建設 等)
役員	会長 安富 正文(東京地下鉄(株) 顧問) 理事長 高橋 俊之(東急(株) 取締役専務執行役員)
顧問	長谷部 健(渋谷区長) 多田 修人(前 東京商工会議所渋谷支部 会長) 渡邊 功(前 渋谷再開発協会 理事長)
事業	・目的のための事業の計画・調査研究・意見集約・要望、陳情 ・諸計画の推進(歩いて楽しい街の実現・人間のための交通の実現・人の交流を促す街の運営・その他) ・渋谷まちづくりの考え方の周知、講演会、視察見学会等の開催、会員相互の親睦

渋谷計画2040エリアビジョン委員会の概要

委員長	中島 伸 (東京都市大学 准教授)	委員会アドバイザー (2023年度)	齊藤 精一(パノラマティクス 主宰) 後藤 太一(リージョンワークス 代表社員)
副委員長	高橋 俊之 (渋谷再開発協会 理事長)	事務局	渋谷再開発協会 東急総合研究所

検討経緯

第1回	2023年 5月10日(水)	企画・進め方、調査概要について	第4回	2023年 10月24日(火)	エリア/ストリート ソフト面 施策について
第2回	2023年 7月10日(月)	調査速報と地域特性などの 現状把握、方向性の議論	第5回	2023年 12月20日(水)	全体アウトプット案の確認、 施策や仕組みについて
第3回	2023年 9月 6日(水)	ビジョンの基本方針 ソフト面 施策について	第6回	2024年 3月11日(月)	全体アウトプット 確認

<あとがき>

当委員会はいろいろな考え方を持った多様なメンバーが参加していますが、渋谷のまちを良くしようという想いのもと一定の方向性を示すことができました。地元、事業者、行政が三位一体となり、まちを作る側からではなく、「使う側」からの視点に立ち、まちをどういう風にしていくべきかを「まちの使い手」をテーマに議論を重ねてきたものであり、これこそ本質的な都市計画の取り組みだと思います。

今回の内容を踏まえ、次なる具体的アクションにつなげられるよう引き続き検討を深めてまいります。

副委員長 高橋 俊之(渋谷再開発協会 理事長)



SHIBUYA 2040

渋谷計画 2040

— まちづくり戦略 —

2024年7月

一般社団法人 渋谷再開発協会



渋谷計画2040—まちづくり戦略—（2024年7月改訂）

いつでも誰もが面白いことに、出会い、関わり、挑めるまち

街の使い手ともに育てるビジョン

再開発事業が概成する2040に向けて、

「都市開発によっていかに価値創造するか」という視点だけではなく、

「街の使い手のための環境をどのように整えていくか」という視点を提示。

ハードとソフトの連携を重視した使い手目線のまちづくりの推進

大規模で最先端の新しい空間も、小規模で多くの人に愛され使われてきた空間も互いにリスペクトして連携、共存して新しい変化を目指します。



渋谷計画2040—まちづかい戦略—その要点

実現に向けて

1
雑居感

2
まちの余白

3
カルチャーを育む

4
共存共栄できる仕組み

5
魅力的な回遊

5つの施策

まちづくりビジョン・まちづくり方針のもと、5つの施策を定めました。これらの施策の方向性に沿ったアクションを進めることで、ビジョンの実現に近づいていくと考えました。

1 新・旧、大・小、表・裏の役割分担・連携による“雑居感”を重視する。

整然とした街並みだけでなく、築古ビルのリノベーションなど、雑居感の重視により、露地農文化などカルチャーが育ちやすい土壌を整える。



2 “まちの余白”を確保し、チャレンジの環境を整える。

様々なチャレンジができる余白(場所)と、取組みしやすい環境(活動の申請がしやすい等)により、新たな芽となる活動がしやすい素地をつくる。



3 “カルチャーを育む”ために力を注ぐ。

プレイヤー(アーティスト・クリエイターや、街で何か活動をした人)を呼び込み、見守り、活動やコミュニティを活性化し、カルチャーを育む。



4 多様な活動する人々が“共存共栄できる仕組み”をともに創る。

多様なプレイヤー(参加促進により、既存プレイヤーへ過度な負担が生じないよう、広告等で得た収益を清掃活動等へ還元するといった、来街者や住民、事業者など関わる全ての人々にとって共存共栄の仕組みをつくる。



5 “魅力的な回遊”により、交流を活性化する。

駅を中心とした歩行者空間整備により、回遊性を高め、エリア全体の魅力を高める。さらに、外縁の目的地をつなぐ渋谷らしいエンタメ要素のあるモビリティを整備するなど、エリア広域での交流を活性化する。



使い手目線でのエリアコンセプト

委員会で議論されたアイデアを中心に、まちの使い手の目線を意識したエリアコンセプトとして表現しました。

1 渋谷駅周辺
渋谷の象徴的な風景に飛び込むエリア
キーワード/ 国際的、交通、公共空間のエンタメ活用

2 センター街・興渋谷方面
体験により感覚が研ぎ澄まされるエリア
キーワード/ センター街: ストリートパフォーマンス、テラス、賑わい
興渋谷方面: 多様な個性、落ち着きのある住環境

3 駅西側 道玄坂・神泉方面
昼も夜も刺激を受けるエンタメエリア
キーワード/ 道玄坂: エンタメ関係者コミュニティ、ストリート活用
神泉方面: 落ち着いた賑わい、個性

4 駅南西側 桜丘方面
賑わいとクリエイティビティを感じるエリア
キーワード/ ストリートアート、スタートアップ/クリエイターのコミュニティ

5 駅南側 恵比寿・代官山方面
歴史・緑・川・人と触れ、賑わいと落ち着きを感じるエリア
キーワード/ スタートアップ/クリエイター、共創、様々な集積

6 駅東側 宮益坂・青山方面
思い、学び、活力が湧き上がるエリア
キーワード/ 宮益坂: 賑わい、憩い、ストリート活用
青山方面: 学び、スポーツ、発表の場

エリアイメージ



7 駅北西側 公園通り方面
自分を広め、深めて、感性を高くエリア
キーワード/ 学生、学校等の参画、クリエイター、店舗の活用

8 駅北西側 公園通り方面
カルチャーに溶け込み、緑を感じるエリア
キーワード/ 道路での歩行者優先イベント、ストリートスポーツ、次世代モビリティ

推進に向けた体制

関係する人を集めてワーキンググループを組成し、「いつでも誰もが面白いことに、出会い、関わり、拠る まち」の実現に向け、多様な主体が連携して、まちの使い手をサポートすることを目指します。

実現のためのアプローチ

	取り組みのポイント	2040に目指す姿	
「使い手目線」のアプローチ	A 雑居感を失わないようにする	雑居感を活かす空間づくりの推進(リノベーション等) しゅれまち制度 [※] の活用推進	露地農の景観を残しつつ、築古ビルのリノベーションや新たなオープンスペースの整備により、多様な魅力的な交流空間が拡大している
	B カルチャー・渋谷らしさを作る	エンタメ関係者などまちの使い手による連携体制構築と仕組みづくり	まちのプレイヤーへの場の提供やプレイヤー同士の連携が拡大し、渋谷らしい新たな文化が創出されている
	C 歩いて楽しいまちを作る	開発動向に合わせた歩行者空間活用、回遊性向上等の推進 交通政策・駐車場連携等の推進	あらゆる広域やストリートが魅力的な取り組みに積極的に活用され、回遊ネットワークの拡大による人中心の歩いて楽しいまちが実現されている

多様な主体が連携するイメージ



6 ※イラストラティブイメージです

7 ※東京都による「東京のいたち」を基にした推進事例の略。地区を指定し用途・再生方針を定め、都市計画に基づく規制緩和を活用することで、魅力ある街並みを実現しようとする制度。渋谷駅周辺では現在3地区指定。



渋谷計画2040—まちづかい戦略—その要点

ユニークな谷地形が育てた渋谷

街路から文化を

より多くの渋谷ファンの人たちとの開かれた議論と活動の場をつくりだすために。



今日の基調講演テーマ

渋谷のナイトタイム観光のポテンシャルを考える。



渋谷のナイトタイム観光のポテンシャル活かすために
みなさんと考えてみたいこととお話しします。



ネットの中心
GM
無料助産

日本経済大学
大学

GMO

広告募集
No.147
03-5774-7505

ラオス
Q

株式会社
Kul-kenotech.co.jp



渋谷のまちづくりの現在

渋谷の百年に一度の大きな変化とは。

渋谷の街の変化 (あえて大雑把にまとめると)

第2二次世界大戦前後の駅前ターミナルの形成と戦災復興



高度成長期以降の渋谷

文化発信拠点としての渋谷

渋谷パルコ、文化村、渋谷系、ストリートカルチャーの展開



21世紀からの都市再開発

100年に一度の変化 (他路線との相互直通)

オフィス床の増加

インバウンド観光客の増加



渋谷区基本構想

多様な文化創造と交流の生まれる渋谷が加速化している。



20
周年

はなびさまで20周年

20
周年

カラオケ
JOYSOUND

茗荷坂下



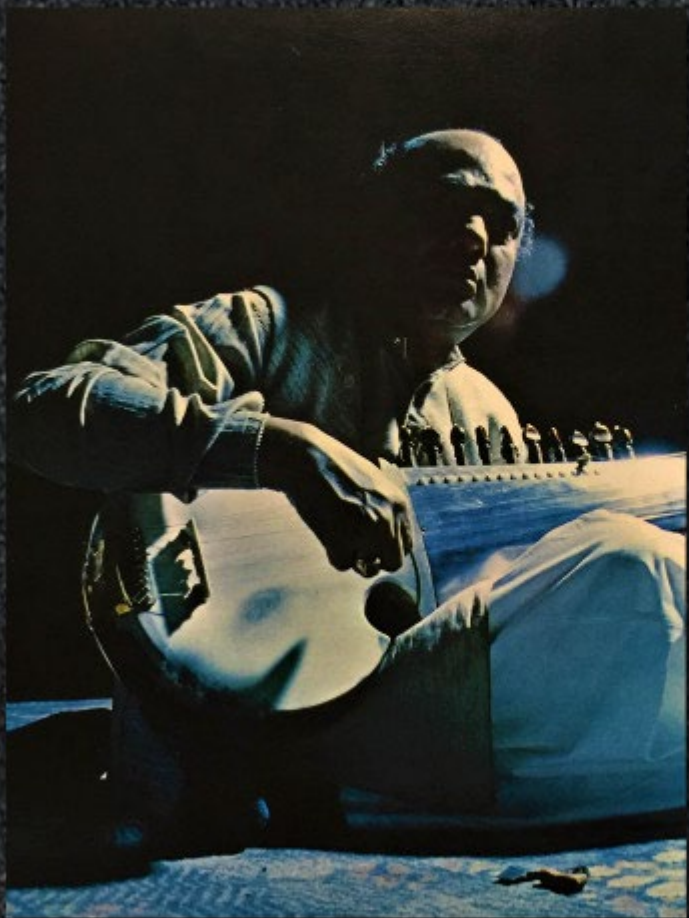
ナイトタイム観光を渋谷で考えるとは

渋谷の多様な夜を考え、デザインするということ

夜とは、いつのことか？
渋谷の夜とはどんな時間か？

夜とは、いつのことか？
渋谷の夜とはどんな時間か？

渋谷の街における渋谷の夜の
時間の移ろいを考えたい。



USTAD
ALI
AKBAR
KHAN

Pre-Dawn
to
Sunrise
Ragas

アリー・アクバル・ハーン / 夜明けのラーガ

北インド古典音楽
夜明けに演奏するためのRaga（音階）



ピチカートファイブ 「東京は夜の七時」

【歌詞部分抜粋】

トーキョーは夜の七時
あなたに逢いにに行くのに
朝からドレスアップした

...

トーキョーは夜の七時
待ち合わせたレストランは
もうつぶれてなかった

...

ひと晩中喋り続ける
トーキョーは夜はフシギ

...

交差点で信号待ち
あなたはいつも優しい

...

トーキョーは夜の七時
嘘みたいに輝く街
とても淋しい だから逢いたい
早くあたなに逢いたい

渋谷の夜を想起した時に
その時間、そこで起きることの
期待が場の空気を作っている。

渋谷の多様な夜の時間と風景（シーン）

- ・ 仕事が早上がりなのか、明るいうちから一杯はじまるワーカーの16時。
- ・ これから繰り出す人々が待ち合わせに集まる宵の口、19時のハチ公前広場。
- ・ 二軒目を表通りから裏通りへ物色する21時過ぎ。
- ・ まだ帰りたくない人ともう帰りたい人との綱引きがはじまる23時。
- ・ 24時、終電間際の道玄坂を転がり下りる人たち。
- ・ 終電を逃して、歩道に人があふれる午前1時。（夜はこれから！）
- ・ クラブの集まるストリートをホッピングする午前2時。
- ・ 空が白み始めた始発を待つ人たちが動き始める午前4時半。
- ・ 昨日がまだ終わらない午前7時（31時）の裏通り。

渋谷の多様な夜を考える

夜には名前があるということ

宵立ち前、夜支度、宵の口、夜の帳、夜盛り、夜のふるい、夜の奥、夜の名残、夜が解ける、夜明け前、朝またぎ、etc.

夜の時間と風景には区別があるということ

区別が大事にされ、違いが豊かに享受されるということこそ文化的である。

「渋谷固有の夜」にもっと名前がつくといい。

ナイトタイム観光はナイトタイムカルチャーであるべき。
近年の開発はワーカーも渋谷に急増、多様な夜の体験需要も。

海外の事例：劇場文化とバーカルチャーの往還



ブエノスアイレス、アルゼンチン

一晩の移ろいのシークエンスとして体験されるナイトタイムカルチャー

渋谷の多様な夜のデザインを考える

多様さが生み出す「移ろい」に価値を見いだす。

- ・ 時間的移ろい（夜の時間遷移に着目する）
- ・ 空間的移ろい（場から場へ、表通りから裏通りへ）

多様な人の多様な夜の時間の移ろいをつなぐこと。
時間と時間、場所と場所のつながりの価値を可視化して
デザインすることでナイトタイムを豊かにする。

（例としての「銀ブラ（銀ブラはスポット開発ではない）」